

「新潟大学統一英語副教材」改訂増補プロジェクト

秋 孝道

The Revision and Enlargement of the Supplementary Textbook for Niigata University EFL Programs

Takamichi Aki

This report outlines the revision and enlargement of the supplementary textbook designed for Niigata University EFL Programs.

Keywords : *supplementary textbook, revision, enlargement*

0. はじめに

本報告では、平成17年度に新英語教育カリキュラムの柱の一つとして導入された「新潟大学統一英語副教材」(以下、「副教材」)の改訂増補プロジェクトの概要を述べることにする。

1. 改訂増補に向けて

改訂増補に向け、以下の課題に取り組むこととした。

- (1) 18年度版の印刷費用の確保
- (2) 改訂・修正作業
- (3) 基礎的教材の肉付け
- (4) 副教材利用解説の作成

(1)の18年度版印刷費用については、全学教育推進経費(英語部会分)に計上することが認められた。(2)の改訂・修正に関しては、記述量の過不足、内容の正確さ・適切さも含め、修正・加筆すべき点が数多く指摘されており、今後も継続してその作業を進めて行くことにした。

次に、(3)(4)を含めた改訂・開発については、17年度版の配分予算のほとんどを印刷費に充てざるを得なかったため、新たにプロジェクト申請をすることとなった。「平成17年度教育プロジェクト事業計画」の採択は見送られたが、「平成17年度授業改善プロジェクト経費」の配分を受けることができ、改訂増補を鋭意行うことができた。このプロジェクトの内容は、下記の通りである。

「新潟大学統一英語副教材」改訂増補プロジェクト
(平成17年度授業改善プロジェクト経費)

代表 人文社会・教育科学系 助教授 秋 孝道
分担 人文社会・教育科学系 教授 大石 強
分担 人文社会・教育科学系 助教授 本間 伸輔
分担 人文社会・教育科学系 助教授 平野 幸彦

概要・方法

今年度から、新たに策定された英語教育改善策に基づき、「共通英語」などでは「新潟大学統一英語副教材」(以下、「副教材」)を用いた授業運営がなされている。

この「副教材」は、昨年度採択の予算により作成が可能になったが、予算のほとんど(30万円のうち27万円)を印刷費に費やさざるを得ず、十分な開発研究が出来なかった。

さらに、現在「英語教育改革作業委員会」によって検討されている「抜本的英語教育改革」では、現在のものと一部異なる教育内容も想定されており、それに対応させる形で教材改善を進める必要性に迫られている。

また、「共通英語」が、高等学校英語から新潟大学英語への「橋渡し」的な役割を事実上担っていることも考え合わせ、「副教材」のさらなる充実をはかるために、このプロジェクトを申請する。改善の主眼は、以下の二点である。

- (i) 高等学校の英語教育の内容・レベルを調査し、特に「副教材」の内容に困難さを感じている学生のために、基礎的な教材の肉付けを図る。
- (ii) 教育の内容の平準化をさらに進めるための方策として、教員向け「副教材利用解説」を作成する。

2. 改訂増補の結果について

まず、増補結果を数字で示すことにする。

改訂増補前の17年度版 総頁数 65頁
改訂増補後の18年度版 総頁数 78頁

増補分量は単純計算で2割増しである。しかしながら、印刷経費抑制のため、空白スペースを極力減らす作業を行い、結果として、実際の記述量は3割以上増加している。

次に改訂増補の内容について説明する。今回の改訂増補内容は、以下のようにまとめられる。

- (5) 利用解説の追加
- (6) 基礎的教材の肉付け
- (7) 「基本語彙」「イディオム表現」の記述部分の全面的改訂
- (8) その他の改訂増補

(5)(6)では、上記(1)の「内容に困難さを感じている学生」に配慮した解説・教材や、復習のためのセクションを追加した。また、(7)では、新たに接辞の膨大な説明を加え、利用頻度の高い熟語を精選するという工夫を施した。

これらの改訂増補作業を確認するための手掛かりとして、17年度版と18年度版の目次を以下に示しておく。

17年度版目次

はじめに

第1章 基本文法

- 1 動詞
- 2 動詞を述語とする代表的構文(1):
述語連結要素の現れ方
- 3 準動詞
- 4 動詞を述語とする代表的構文(2):
to+動詞・動詞+ingを述語連結要素として
- 5 名詞
- 6 代名詞
- 7 形容詞
- 8 形容詞を述語とする代表的構文
- 9 前置詞
- 10 副詞
- 11 接続詞
- 12 疑問文
- 13 助動詞
- 14 仮定法
- 15 否定文
- 16 関係詞
- 17 比較
- 18 省略

19 情報構造と特殊語順構文

- 第2章 新潟大学英語基本語彙
- 第3章 イディオム表現について
 - 1 句動詞
 - 2 イディオム
- 第4章 英語の発音について
 - 1 発音記号
 - 2 強勢
 - 3 イントネーション
 - 4 音の連続
 - 5 最後に

18年度版目次

はじめに

第1章 基本文法

- 1 「基本文法」の説明方法と用語
- 2 動詞
- 3 動詞を述語とする代表的構文(1):
述語連結要素の現れ方
- 4 準動詞
- 5 動詞を述語とする代表的構文(2):
to+動詞・動詞+ingを述語連結要素として
- 6 名詞
- 7 代名詞
- 8 形容詞
- 9 形容詞を述語とする代表的構文
- 10 前置詞
- 11 副詞
- 12 接続詞
- 13 疑問文
- 14 助動詞
- 15 仮定法
- 16 否定文
- 17 関係詞
- 18 比較
- 19 省略
- 20 情報構造と特殊語順構文

- 21 復習(1):
「基本文法」で取り上げた代表的な構文
- 22 復習(2): 名詞句を修飾する要素

第2章 基本語彙

- 1 接辞
- 2 単語
- 3 動詞を中心とした熟語 (句動詞など)
- 4 動詞以外の品詞を中心とした熟語

第3章 英語の発音について

- 1 発音記号
- 2 強勢
- 3 イントネーション
- 4 音の連続
- 5 最後に

3. 今後に向けて

本プロジェクト実施にあたっての反省点としては、まず、上記(四)の「副教材利用解説」がまだ質的・量的に不十分であることを記しておくべきであろう。

しかしながら、この件については「全学英語教育FD」などでも議論を重ねており、今後も作業を重ねていく予定であることも附言しておく。

次に、今後に向け早急に検討しなければ重要課題は、印刷費用確保の問題である。これまでの印刷費は、以下の経費にそれぞれ計上された。

17年度版

新潟大学統一英語副教材開発プロジェクト
(平成16年度教育改善研究開発調査経費事業)

18年度版

全学教育推進経費（英語部会分）

19年度

全学教育推進経費
(人文社会・教育科学系4学部から案分)

しかしながら、このような経費確保には問題が多い。まず、プロジェクト型経費を獲得して毎年の印刷費を捻出することは困難である。次に、全学教育推進経費は、18年度に配分方法が変更され、19年度以降の見通しも極めて不透明である。

この印刷費確保の問題に関して、最後に、「副教材」の『全学』性を指摘しておかなければならない。まず、「副教材」は『全学』英語教育改革の一つの柱をなし、『全学』レベルで正式に認められたものである。また、「副教材」が用いられる「共通英語」「基礎英語」は、ほぼ『全学』的な必修科目である。このように、他の(副)教材と大きく異なり、「副教材」の『全学』的性質が極めて高いことは明らかであり、今後の課題として、「副教材」を何らかの『全学』的経費によって安定的に印刷してゆく方策を探る必要がある。